

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年9月12日（金）

2 確認箇所

- ・多核種除去設備等処理水測定・確認用設備（図1）
- ・J8タンクエリア、J9タンクエリア（図1）

3 確認項目

- （1）多核種除去設備等処理水の試料採取状況
- （2）J8タンクエリア、J9タンクエリアの解体作業状況

4 確認結果の概要

（1）多核種除去設備等処理水の試料採取状況

多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の海洋放出に際して、東京電力では、希釈前のALPS処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウム濃度についても、ALPS処理水を海水で希釈した放流水について、法令上の基準(60,000Bq/L)より低い運用目標基準(1,500Bq/L)を設定し、濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。

東京電力では、ALPS処理水の第16回目（令和7年度第5回目）の放出に向けて、G5エリアB/A群のタンクに貯留しているALPS処理水を測定・確認用タンク（C群）に移送後、9月5日から循環攪拌運転を行っている。

本日は、希釈前の放射性核種濃度及び水質測定用のALPS処理水の試料採取が行われることから、その状況や手順を確認した。（前回確認：令和7年7月17日）

- ・サンプリングは、サンプルタンク循環ポンプが設置されている多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）のサンプリングラインA系から行われ、採水については、IAEA職員による確認が行われた。（写真1）
- ・建屋入口付近には、サンプリングした試料を仮置きするクリーンエリアが設置され、ここで試料を採取したポリ瓶への所定のラベリング及び封印などの処置が施されていた。（写真2）
- ・サンプリングは、はじめに配管のフラッシングを実施した後、事前の採取計画に従い手順どおり、分析機関ごとに容器を分けて試料の採取が行われた。作業中、バルブ操作者と採取者でしっかりと声かけがなされており、サンプリング時に試料容器から水が溢れたり、周りに水が飛散したりすることはなく、適切に行われていた。

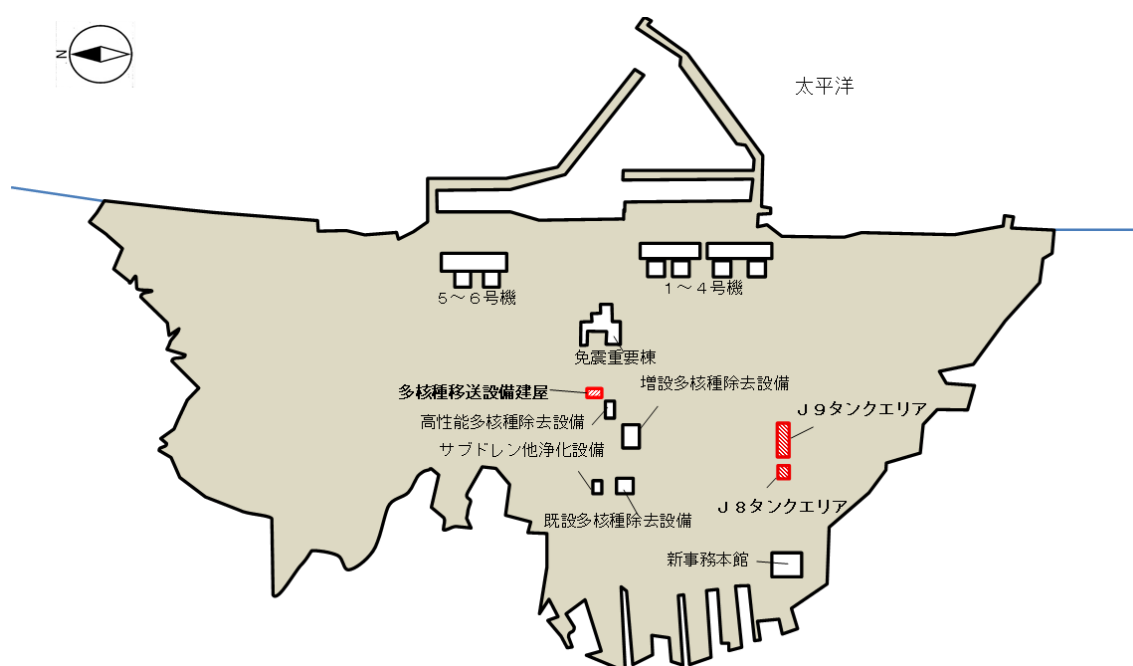
- ・当日、東京電力社員 5 名ほどが監理員として作業に立会っており、サンプリングラックの近傍で手順に誤りがないか確認していた。また、サンプリングした試料をクリーンエリアに置く際に、水の滴下がないか、採水容器に水滴が付着していないか等の確認が行われていた。（写真 3）

（2） J 8 タンクエリア、 J 9 タンクエリアの解体作業状況

処理途上水を保管している J 8 タンクエリア及び A L P S 処理水を保管していた J 9 タンクエリアでは、 3 号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設が予定されている。 J 9 タンクエリアでは、エリア内に設置された溶接型タンク及び付帯設備の解体作業が令和 6 年度下期から令和 7 年度末にかけて計画されており、 J 8 タンクエリアではタンク内から処理途上水を移送後、今年度中の解体開始が予定されている。

県では、 J 9 タンク解体工事の実施状況について継続的に確認しており、本日もその確認を行うと共に J 8 タンクエリアで実施している処理途上水の移送状況を確認した。（前回確認：令和 7 年 8 月 1 8 日（ J 9 タンクエリアでの作業状況））

- ・ J 9 タンクエリアでは 1 2 基全ての溶接型タンクの解体が完了しており、エリア内にはタンクの解体片が仮置きされている他、エリア近傍に置かれた 2 0 f t コンテナには解体片の一部が収納されていた。（写真 4）
- ・ J 8 タンクエリアでは、タンクの北西側に残水を移送するための車両（大型吸引車）が停車しており、タンクから車両付近までホースが敷設されていた。現地確認時、作業は行われておらず、車両とホースの接続部は養生されていた。（写真 5）



（図 1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1)
サンプリングの状況①



(写真 1－2)
サンプリングの状況②
(IAEA 現地職員によるラベリング)



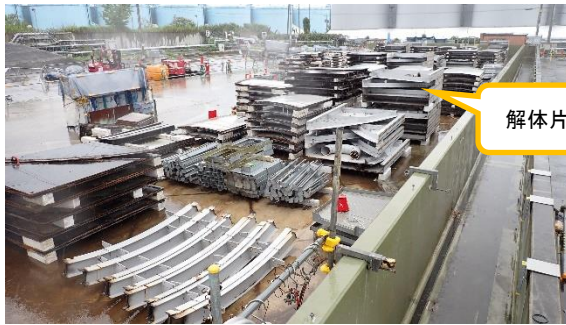
(写真 2－1)
東京電力社員による採取済容器の封印実施状況



(写真 2－2)
採取済容器のラベリング状況



(写真 3)
東京電力社員による作業確認の状況



(写真 4－1)
J 9 タンクエリア内の状況



(写真 4－2)
解体片のコンテナ収納状況



(写真 5)
J 8 タンクエリアの状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。